

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03149

研究課題名（和文）冷戦前半期における中国のナショナリズムの歴史的形成に関する実証的研究

研究課題名（英文）The Historical Formation of Nationalism in China during the Early Period of the Cold War

研究代表者

鄭成（ZHENG, Cheng）

兵庫県立大学・環境人間学部・教授

研究者番号：20386668

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1950年代の中国に新たに台頭するナショナリズムについて、共産党政権側の促進政策と民衆側の受容の両方からその形成過程を考察するものである。

先行研究と比べれば、本研究は民衆の受容にも着眼し、日記、書簡などの個人的史料を通じて、当時の知識人たちが各自に国の提唱するナショナリズムをいかに受け入れて、さらに内面化した過程を明らかにした点で特徴がある。国の政策と民衆の受容の二つの視点を取り入れた本研究は、現代中国のナショナリズムの形成過程をめぐり、国家権力と民衆の相互作用を把握できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、民衆のイデオロギー受容にも着目し、国家と民衆の相互作用から中国のナショナリズムを考察する点において独自性をもつ。閉鎖的で、暴力的言論が横行するという1950年代の中国の社会的環境では、民衆は支配的であった官製ナショナリズムに流されやすい一面があった。一方、厳しい現実生活が国民の官製ナショナリズムに対する全面的受け入れを阻む壁ともなっていた。このような歴史は、国民がプロパガンダと現実生活の間に揺れる要因となったと考えられる。本研究から得られた上記の知見は、国家と国民の相互作用をめぐり、ダイナミックに動く今日の中国社会の発展論理の理解にとって示唆的な手がかりを提供している。

研究成果の概要（英文）：This study examines the formation process of the emerging nationalism in 1950s China, considering both the promoting policies of the Communist Party regime and the acceptance by the general populace. In comparison to previous research, this study stands out by focusing on the acceptance by the general populace, and by using personal sources such as diaries and letters to reveal how intellectuals of the time individually embraced and internalized the nationalism advocated by the state. By incorporating both the perspectives of state policies and public acceptance, this study provides insights into the formation process of contemporary Chinese nationalism and the interaction between state power and the general populace.

研究分野：現代中国史

キーワード：ナショナリズム 国民統合 思想統制 内面化 知識人 プロパガンダ 建国初期

1. 研究開始当初の背景

本研究は、冷戦前半期にあたる 1950 年代に中国に新たに台頭したナショナリズムの形成過程を明らかにすることを目的として開始された。現代中国のナショナリズムについて、20 世紀初頭と 21 世紀初頭を二つの高揚期として捉えて、それに着眼する研究が多い。そのなか、社会主義時期のナショナリズムについて、1990 年代以降の政策を主な考察対象とした研究が主流となっている。このような研究現状では、国家権力の号令に応じた形で、ナショナリズムが民間社会に次第に高揚するという図式が広がっている。このような単純な図式は、中国の現状について当てはまるどころがあったものの、権力側の働きかけが民衆の意識構造の深層にいかん浸透していったかという、国家と民衆の相互作用の歴史過程が考察されていないため、現代中国のナショナリズムの歴史的展開について論理的解釈が今なお不十分な箇所が多い。

本研究は、先行研究に取り上げられなかった冷戦初期の 1950 年代に焦点を当てて、ソ連の社会主義的影響を受けながら、アメリカと対抗関係にあった中国の共産党政権が独自のナショナリズムを形成させていく過程を研究対象とする。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の二つの問いに集約される。

一つは、1950 年代の中国共産党政権が、国民を対象とした思想統制の展開にあたって、プロパガンダ、学校教育を通じてどのようなナショナリズムを作り出したのか。言い換えれば、当時のナショナリズムはどのようなコンテンツがあったのか。

もう一つは、上記のナショナリズムが、どのように国民の意識深層に浸透していたのか。また、言い換えれば、ナショナリズムに対する国民の受容を左右した要因はどのようなものであったのか。

前者は、政権側の動きが考察の主体、後者は国民の意識構造が考察の主体となる。両者への考察結果を統合すると、当時のナショナリズムの形成過程を立体的に把握することが可能となると考えられる。

3. 研究の方法

主に歴史資料を中心とした文献調査が使用される。

政府発行の宣伝資料、教育関係者向けの専門雑誌などを利用して、権力側が作ったナショナリズムの中身を把握する。

日記、書簡などの個人的史料を使い、1950 年代を生きた党幹部、大学教員、大学生などの知識人らが社会主義的ナショナリズムをいかに受容し、それを内面化した過程を事実面から把握する。その上、多様な事象を分類して、それをもとに個々人の内面化を左右した要因を分析する。

4. 研究成果

著書

- ・ (共著)「和解のための新たな歴史学 方法と構想」pp.240-272 2022.4 明石書店
- ・ (分担執筆)「中国年鑑 2020 年」pp.128-130 2020.5 中国研究所編・明石書店発行
- ・ (分担執筆)「スターリンの極東政策 公文書資料による東北アジア史再考(東北アジアの社会と環境・第五巻)」pp.110-132 2020.2 古今書院
- ・ (分担執筆)「中国年鑑 2019 年」pp.126-128 2019.5 中国研究所編・明石書店発行
- ・ (共著)「満洲の戦後 継承・再生・新生の地域史」pp.76-80 2018.11 勉誠出版
- ・ (分担執筆)「中国年鑑 2018 年」pp.118-121 2018.5 中国研究所編・明石書店発行

論文

- ・ (査読付)「中国建国初期の小中学校における思想政治教育 トレーニングとしての愛国主義教育」pp.81-102 2022.3「社会科学研究」73号 東京大学社会科学研究所

- ・「中国建国初期の芸術家の思想統制への順応に関する一考察 映画人蔡楚生を中心に」2022.2「アジア太平洋討究」43号 早稲田大学アジア太平洋研究センター
- ・「建国初期における青年知識人の社会主義への思想転向」pp.79-97 2020.11「アジア太平洋討究」40号
- ・「中国の愛国主義教育の有効性への歴史的考察 1956年の上海鉄道局主催の夏令営を手がかりに」pp.165-179 2019.11「アジア太平洋討究」37号 早稲田大学アジア太平洋研究センター
- ・「知的交流をめぐる中国人留学生の意識構造の変容 二十世紀の中国留学史を手がかりに」pp.76-80 2019.3「ワセダアジアレビュー」第21号 早稲田大学地域・地域間研究機構
- ・「中ソ文化交流をめぐる中国の青年知識人のプロパガンダ受容—青年S日記を手がかりに」pp.91-108 2019.3「アジア太平洋討究」第36号 早稲田大学アジア太平洋研究センター
- ・「建国初期の科学研究者によるイデオロギー宣伝協力についての一考察」pp.227-237 2018.2「アジア太平洋討究」第30号 早稲田大学アジア太平洋研究センター
- ・「中ソ友好・交流と中国人の対外意識の影響」pp.180-192 2017.11 総合学術誌「アリーナ」第20巻 中部大学

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 鄭成	4. 巻 43
2. 論文標題 中国建国初期の芸術家の思想統制への順応に関する一考察 映画人蔡楚生を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 103-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57278/wiapstokyu.43.0_103	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鄭成	4. 巻 73
2. 論文標題 中国建国初期の小中学校における思想政治教育 トレーニングとしての愛国主義教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会科学研究	6. 最初と最後の頁 81-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34607/jssiss.73.1_81	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鄭成	4. 巻 40
2. 論文標題 建国初期における青年知識人の社会主義理念への思想転向	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 79-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鄭成	4. 巻 37
2. 論文標題 中国の愛国主義教育の有効性への歴史的考察-1956年の上海鉄道局主催の夏令営をてがかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 165-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 21
2. 論文標題 知的交流をめぐる中国人留学生の意識構造の変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ワセダアジアレビュー	6. 最初と最後の頁 82-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 36
2. 論文標題 中ソ文化交流をめぐる中国青年知識人のプロパガンダ受容について—日記を手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 91-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 30
2. 論文標題 建国初期の科学研究者によるイデオロギー宣伝協力についての—考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 225-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭成	4. 巻 20
2. 論文標題 中ソ友好・交流と中国人の対外意識への影響	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アリーナ	6. 最初と最後の頁 180-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 1950年代建国初期の知識人の思想的変容
3. 学会等名 日本現代中国学会関東部会定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 中国建国初期の芸術家の思想統制への順応に関する一考察 映画人蔡楚生を中心に
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター「20世紀中国史の資料的復元」研究班
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 建国初期中国の社会主義プロパガンダ受容についての一考察 政治性と芸術性の狭間にある映画人
3. 学会等名 アジア政経学会2021年度春季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 1950年代の中国における青年知識人の「平和的」転向について
3. 学会等名 21世紀メディア研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 日本への留学生と彼らのその後 中国・韓国・台湾の比較の観点から (中国の事例)
3. 学会等名 日本国際文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 中ソ文化交流をめぐるー中国の青年知識人の受容について
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鄭成
2. 発表標題 The Soviet Union ' s Influence on China ' s public Perception of other Nations
3. 学会等名 " Russia ' s Relations with Northeast Asia " (Institute of Contemporary Asia Studies, Temple University, Japan Campus (招待講演))
4. 発表年 2017年～2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 寺山恭輔、鄭成ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 146
3. 書名 スターリンの極東政策: 公文書資料による東北アジア史再考	

1. 著者名 鄭成ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 満洲の戦後 継承・再生・新生の地域史	

1. 著者名 鄭成ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中国研究所	5. 総ページ数 510
3. 書名 中国年鑑2018	

1. 著者名 鄭成ほか12名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 和解のための新たな歴史学 方法と構想	

1. 著者名 鄭成ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中国研究所	5. 総ページ数 518
3. 書名 中国年鑑2019	

1. 著者名 鄭成ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中国研究所	5. 総ページ数 500
3. 書名 中国年鑑2020	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://researchmap.jp/zhengcheng Russia's Relations with Northeast Asia https://www.youtube.com/watch?v=M0u70szNv28
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------